

「いっしょにあそぼう。」

徳島県 加茂名小学校 2年 坂元 天音

(たのしそうだな。わたしもみんなといっしょにあそびたいなあ)

わたしは、休み時間、一人ですべりだいのかいだんにもたれて、ともだちがおにごっこやすべりだいをしてあそんでいるのを見ていた。

(よして、って言いにくいなあ)

※註「よして」:(仲間に)入れて、まぜての意

と思いながら、みんなのことを見ていたら、なきたくなってきた。なきそうになりながらずっと見ていた。すると、

「いっしょにあそぼう。」

と、まどかちゃんがさそってくれた。わたしは心があたたかくなった。空にとびはねるくらいうれしくなった。はずむような気持ちであそんだ。さっきまでのかなしい気持ちはなくなった。わたしもまどかちゃんのように、ともだちにやさしいことばをかけて、ともだちの心をあたたかくしたいと思った。

プールでのじゆう時間に、はなちゃんが一人でいた。わたしは、(はなちゃんもみんなといっしょにあそびたくて、かなしい気持ちでいるのかなあ) と思って、

「いっしょにあそぼう。」

とさそった。すると、はなちゃんは、

「およぐれんしゆうをしているから、今日はいっしょにあそべない。ごめんね。」

と言った。はなちゃんは、かなしくなかったんだ。一人でいても、かなしくないときがあるんだ。気持ちはその人によって、そのときによってちがうんだ、と気づいた。

まどかちゃんもプールで一人でいた。(まどかちゃんもはなちゃんのように、およぐれんしゆうをしたいから、一人でいるのかなあ) と思って、まどかちゃんのことをしばらく見ていた。すると、まどかちゃんのかおがかなしそうになっていっているように見えた。(まどかちゃんはみんなといっしょにあそびたいのかなあ) と思って、わたしは思いきって、

「いっしょにあそぼう。」

と、まどかちゃんをさそった。まどかちゃんはにっこりわらって、

「いいよ、あまちゃん。」

と言った。それからいっしょに水中おにごっこをした。とてもたのしかった。まどかちゃんのかなしそうなかおが、にこにこしてうれしいかおになった。そんなまどかちゃんを見て、わたしもうれしくなった。

いままで、人にやさしいことばをかけることがしんせつだと思っていた。でも、それだけでは本当のしんせつではないとわかった。同じことばをかけても、その人の気持ちによってうれしかったり、うれしくなかったりする。その人のそのときの気持ちを考えて、その人がしてほしいことをすることがしんせつだと気づいた。これからも、その人がどんな気持ちでいるのか、どんなことをしてほしいのかを考えて、みんながえがおになれるようなしんせつができる人になりたい。